公　開　講　演　会

新たな宇治キャンパスへのいざない
ー最先端科学をより身近にー

■日　時：平成21年10月24日(土) 10:00～12:00
■会　場：宇治おうばくプラザきはだホール(会場案内図(7･11ページ)の②)
■定　員：300名
■参加料：無　料

■プログラム

10:00～10:40　**「宇治キャンパスの研究と教育―地域と世界との連携」**

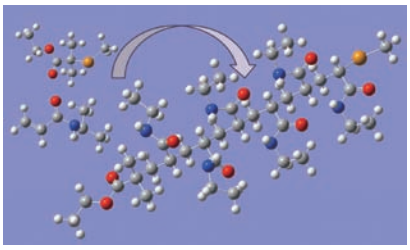
宇治おうばくプラザ実行委員会委員長　防災研究所･教授　石　原　和　弘

講演要旨：宇治キャンパスでは、4研究所、3つの研究ユニット、4研究科と2センターに属する約2千名の教職員・学生が、ナノテクノロジー・遺伝子などミクロから地球・宇宙空間などマクロなものまでを研究対象として、先端研究を行っている。キャンパス外にも拡がる宇治キャンパスの研究・教育活動の概要を紹介する。

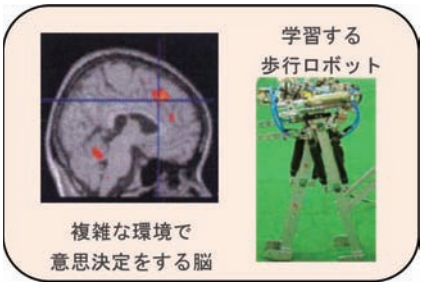
10:40～11:20　**「合成化学:未来を作る科学と技術」**

化学研究所･教授　山　子　　茂

講演要旨：ポリバケツから医薬品まで、私たちの身の回りには人工的に「合成」された有機化合物、有機高分子化合物があふれている。これらの化合物はどのようにして作られているのであろうか？本講演では分子を構築する科学と技術である「合成化学」について、いくつかの例を挙げながら紹介する。



11:20～12:00　**「複雑な環境に適応する脳とコンピュータ」**

情報学研究科システム科学専攻･教授　石　井　　信

講演要旨：高等動物は、直接観測できない状況が存在するなど複雑な環境においても意思決定が可能であり、この知見は、未知なる環境に適応するコンピュータプログラムやロボットの設計のためにも有用である。講演では、脳の意思決定のモデルと、トランプをプレイするプログラムや歩行ロボットに実装した結果を紹介する。